

GESC だより ～座談会 part. 1～

「電気分野で女性技術者がもっと活躍するために、 私たちにできること」

電気学会 男女共同参画推進委員会
<http://www.iee.or.jp/gender>

花崎（東京電機大♀） 本日司会を務める、男女共同参画委員会（通称 GESC）委員長の花崎です。本日は、これからの電気分野を盛り上げていくために、私たち GESC が出来ることはなにか、女性技術者の現状や彼女たちを取り巻く環境、活躍の場などについて委員の皆様ご自身の体験なども踏まえてざっくばらんにご意見を聞かせて下さい。

●業種の多様化で女性技術者が活躍！

花崎 電気学会は総会員数は多いのに（約 24 000 名）、女性会員が 2.0% 程度と、他の関連学会に比べても非常に少ない*のですが、これについて皆さんどう思われますか？

原口（東電記念財団♂） 私の娘に、進路を決める段階で電気分野を薦めましたが、「電気分野は女性が少ないから行きたくない」と言われてしまい、返す言葉がありませんでした。結局、建築分野に進みました。

花崎 女子中高生夏の学校*に参加していると、先生や保護者の方に「女性が電気分野になんて進んでどうするの？」と聞かれることもあって、ネガティブなイメージがあることを実感します。実際に企業で働く女性の皆さんは、どのように感じますか？

高野（日立製作所♀） なぜ女性がここにいるのか？という目で見られたこともありました。女性が少ないから選ばない、選ばないから女性が増えない、という負のスパイラルは常々感じますね。

花崎 電気分野は、現在でも全体的に男性社会というイメージが強いですね。

竹内（三菱電機♀） 最近の進学校の理系クラスでは、男女比率は昔ほど変わらないそうです。でも、女性は電気分野に来ない。化学系やシステム系などは女性が大幅増えています。重電などの分野は特に、女性には仕事を続けにくいと思われていますね。

宮原（中部電力♂） 我が社では、15 年ほど前に積極的に女性を採用していましたが、女性の部下の教育が思うようにならず、残念ながらほとんどが退職してしまいました。ただ、最近ではまた女性の採用数が増えています。

花崎 最近再び女性が増えてきたというのは、教育面の変

化が大きかったのでしょうか？

竹内 以前は、電気分野の仕事といえばインフラを發展させること、つまり力仕事などが多かったけれど、最近は要求されるスキルが多様化しています。女性が働き続けるための制度が整ってきたことでもあります。仕事が多様化したことによって女性が女性としてできる仕事が増えたのも大きいと思います。

宮原 そうですね、多様化によって、コミュニケーション能力や発想力がより求められるようになっていきますから、女性の参画により男性社会では生まれなかった新たな交流や利便性が出てくるのが会社にとってもメリットであると感じますね。

●女性は仕事が続けられない？結婚できない？

花崎 ここまでの話で、基本的に電気分野の社会構造自体が男性向き、という感じを受けますね。そのような社会に立ち向かい、女性ががんばっていく必要が本当にあるかという疑問の声も聞かれますが？

竹内 適材適所だと思います。少子化が進んでいるのだから女性だからというよりも人員として、女性の雇用は増えていって当然だと思います。

仁田（JAXA ♀） 先日、働く女性（派遣社員等も含む）の 7 割は年収 300 万円未満だという、ある人材派遣会社による調査結果*を目にしました。正直、皆さん、もっともらっているでしょう？（笑）女性技術者の平均年収はその倍以上ありますよね。この点だけでも将来の職業として選ぶ理由に充分なるのではないのでしょうか？この現実を、中学校の先生方や保護者の方があまり認識していないことも、理系好きの女子が技術者を薦めてもらえない、選ばない理由の一つだと思います。

花崎 大学などからもそのアピールはしたいですね。

熊田（東京大♀） 私の大学でも、電気系を含む学部の女性比率は 8% 程度と少なく、今後、特に地方出身の女子学生をいかに増やすかが課題になっています。薬剤師、医師といった資格に繋がる分野は女性には人気ですよ。資格を持っていればどこでもやっていけるという安心感が



左から熊田氏、水落氏、竹内氏、安藤氏



左から丸山氏、小野氏、仁田氏、原口氏、花崎委員長

あるんでしょうね。

竹内 女子生徒向けの講演の際に思うのは、資格を取って安定した職業についてほしいと思っている親御さんが本当に多いことですね。あ、あと中学生から、「技術者になって結婚できるの？」と聞かれたことがあります。女性が少ない職場だから、お相手は選びたい放題なのよね（笑）。

花崎 理系の中で、工学系ではなく理学系が女性に選ばれる理由ってなんでしょうかね。

水落（日立製作所♀） それはやはり高校の先生の薦めが大きいですよ。私の出身女子校では、薬学部に進む人が非常に多く「資格」の存在が大きいんですね。たとえ先生が工学系を薦めようとしても、資格が無いのだから将来の保証がないのでは？と親御さんから問われたときに、先生方は反論できる材料を持っていないんですよ。

安藤（立命館大♀） ある女子校の高校3年生による自由研究発表会に参加した時、物理、化学、生物に関するテーマがほぼ同じ割合で発表されていて、興味のある分野にそれほど偏りはなかったんですね。それなのに、進学先に物理系は選ばれない。これって工学系に女性を寄せ付けない何かの力が働いているとしか思えませんよね。

仁田 「すごい人」、「出来る人」だけを見せられても、将来の職業として意識できないと思うので、企業側は、「普通の人」が働いていることをアピールする必要があるのではないのでしょうか。

水落 それはありますね。我が社の就職サイトには、男女共に同じ人数比率で普通の社員の様子を紹介していて、このおかげか建設や機械など、以前は女性が少なかった業種にも女性が増えました。

原口 以前、女性の採用を増やそうと、おじさんたちが頭をひねり、送電線の鉄塔の上でヘルメットをかぶった女性社員がたくましく作業をしている写真を広報に使用したことがあります。女性の活躍ぶりをアピールするつもりが、「女性がこんな仕事をしないとイケないの？」という印象を与えてしまい逆効果になったことがありました。企業PRも女性目線で作る必要がありますよね。

花崎 女性の働き続けやすさについてはどう考えますか？

宮原 小学生の娘がいる父親の立場から言えば、資格があれば子育てなどから復帰しやすい、と思ってしまいますね。

水落 日本では、転勤があった場合、夫に付いていくために仕事を辞める妻はいても、妻に付いていくために仕事を辞める夫はほとんどいませんよね。

高野 女性本人も周りも「あなたについていきます！」以外は無いと思ってる節がありますね。



左から神津氏、小林氏、高野氏、宮原氏

●電気系を身近で親しむ機会をつくろう！

花崎 日本人の家族観も影響が大きいようです。このような家族との関わりも含め、工学系に就職する、勤続するには、いろいろとハードルがありますが、工学系に進む人を増やすために我々にできることや、後輩に伝えたいことなど、なにかありますか？

小野（東京大♂） 幼少時代から興味を持たせることが非常に大事だと思います。娘の成長と共に学校の様子を見ていて気がついたのですが、女兒向けのおもちゃには物理系のものほとんどありません。それに、女子校には物理部がないんですね。天文系の学会では、小中学生を一般会員としていてイベントに参加できるようにしているので、電気学会でもそのような制度を導入するのもいいですよ。

小林（日立製作所♀） 今は廃刊になってしまったけれど、小学生の頃、作れるおもちゃが付いてくる「科学」と「学習」という雑誌が大好きでした。

仁田 電気学会で活動している人は、やはりもともとそういうものが好きだった人たちですよ。むしろ理系を選ばなかった人たちはどうなのでしょうね。

山本（電気学会事務局（教育大卒）♀） 私もその雑誌は取っていました。小学生までは理科が好きでしたよ。高校で選択していた地学も好きでしたが、数学が不得意だったので、理系の選択肢はありませんでした。

小野 小中学校の総合学習の時間などに電気に関わる実験などを実施できると良いですね。幼少時代から継続して電気系に親しむ機会を用意することが肝心だと思います。

竹内 中高生や保護者向けに講演する機会を増やして、学力が同じ程度の場合、女性は薬学、男性は工学に進む、という現状を変えていきたいですね。

高野 中高校向けに、工学系でも女性がやっつけられることを伝えるパンフレットを女性目線で作るといいですね。掲載する男女比は1:1で偏りなく。

神津（東京電機大♂） 以前、高校教員だった経験から、そういうパンフレットがあると工学系分野を薦めやすくなって大変良いアイデアだと思います。

花崎 2012年3月22日に電気学会全国大会で開催するシンポジウム「女性エンジニアの育成・支援の現状」の場でも配布できるよう作成しましょう！

全員 そうですね！それがいいですね！

花崎 これからも学会内外の現状把握に務め、我々の活動への理解を深めてもらいつつ、GESCのHPも大いに活用して電気分野のあるべき姿をPRしていきましょう。本日はありがとうございました。

（書記：長谷川（埼玉大♀・委員会幹事））

< GESC 座談会 開催詳細 >

・開催日時：2011年11月8日（火）13:00～15:30

・場所：東京トラック事業健保会館 会議室

参加者（15名）の詳細や本文中に掲載している統計情報等（※）は、電気学会 GESC のHPに掲載しています。

そちらも是非ご覧ください！